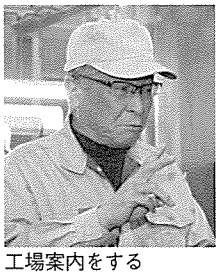
尾張西支部　施設見学会・新春初詣

尾張西支部（冨田昭夫支部長）は、1月24日（木）「施設見学会・新春初詣」を開催し、支部会員27名が参加しました。

午前は日本耐酸壜（びん）工業グループ 丸硝（株）（大垣市荒尾町674）にて、総務部 加納竜一氏より会社概要について説明を受けました。

説明をする
丸硝（株）加納氏

同社は昭和34年創業、主な業務内容はガラスびんを回収しカレットを製造、そのカレットはガラスびんメーカーに提供。ガラスびんは珪砂、石灰石、ソーダ灰とカレットを混合して、高温で溶かして製造されている。カレットはガラスびんのかけらであり、そのままガラスびん原料として使用できる。またガラスリサイクリング活動として、岐阜県を中心に全国へ展開、現在は200の市町村からガラスびんを回収し、再資源としてのカレットを生産。平成21年循環型社会形成推進功労により環境大臣表彰を受賞。


工場案内をする
丸硝（株）馬渕工場長

工場見学は回収されたガラスが高品質のカレットになるまでの工程を、同社取締役本社工場工場長 馬渕邦彦氏に案内をしていただきました。回収したガラスびん他はホッパーから投入、工程内に搬入され、ペットボトル・空き缶やビニール袋など大きな異物を手選別にて取り除き、粉砕機・除鉄機・振動ふるいで異物を

丸硝（株）社屋前にて

取り除いた後、キャップキャッチャーによってキャップを取り除きます。次にマイクロソートにて軽い紙やラベルなどの異物を風圧により繰り返し除去し、異物検査ラインで目視にて品質を確認し、自動検査（モゲンセン）を経てカレット（白色、茶色、その他の色）になり、日本耐酸壜工業へ搬入され製壜におけるカレットの使用率は80％以上です。丈夫で美しいガラスびんを作るには、色分けされて異物のないカレットが良いとのことです。理由としては、ガラスは約1,500℃の高温で溶解して作りますが、金属類、石、陶磁器類は溶解されずガラス中に残り、びんの強度に影響します。鉄やアルミニウムは、ガラスの色調を汚したり、溶解炉のレンガを損傷させることがあるそうです。他にも理由はありますが、異物除去を徹底して作られる同社のカレットは、高い品質を誇る貴重な資源（ガラスの原料）となり、鉱物資源の節約にもなる省エネルギーと言えます。参加者からは先進技術を駆使した工場を見学して、徹底したガラスびんの再生技術と工場の設備について、更なる発展と活躍に期待しています、との感想がありました。

午後は千代保稲荷神社（海津市平田町三郷1980）で初詣を行いました。同神社は「おちょぼさん」と地元では親しみを込めて呼ばれており、商売繁盛を願って多くの参拝客が訪れています。参加者も産廃業界の繁栄を願い、油揚げを奉納し参拝しました。支部事業での初詣は初めてでしたが、会員相互の懇親を深める良い機会となりました。